

木育に対するマネジメント的考察 ～企業でも出来る木育とは～

長野県林業大学校 林学科 2年 ○森内佳^{もりまどか}

要旨

森林の再生や林業の活性化を目指す上で重要な活動のひとつに、木を使いながら様々なことを学ぶ「木育」が挙げられます。その木育を行政や NPO 法人だけでなく企業でやることは出来ないのかと、考え、企業でもできる新しい木育の形について考察しました。森林や木材について正しい知識を与える場を作り、木の長所だけを強調せず、実際に木を感じ、顧客自身に木の良し悪しを判断してもらうことが重要だと思い、付加価値を生み出す木育を提供する「木育カフェ」を提案します。

はじめに

木育とは「森林・林業基本計画」において定められている教育活動で、認定 NPO 法人日本グッド・トイ委員会によると「木とふれあい、木に学び、木と生きる」と簡潔に定義されます。長野県のように自治体が積極的に行っている例もありますが、現状の木育はほとんど、NPO 法人が主体で行われています。それは、教育とお金儲けを結びつけると、ほとんどの場合、上手くいかないと考えられるからです。確かに現在、企業が木育を行っている例は少ないのです。ですので、木材関連企業、且つ、他の切り口で新しい流れを作れないかということで、今回はどのようにすれば企業でも木育で利益がでるのか考察しました。

今回は、「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」¹⁾と「マネジメント[エッセンシャル版]-基本と原則」²⁾を参考にし、企業でも参入可能な木育について考察しました。

1 アンケート概要

木育へ参入可能な企業を設定する上で、①「木育企業とは何か」、②「木育企業の目標は何であるべきか」、③「木育企業の顧客は誰か」が重要だと考え、参考資料とするためにアンケートを取りました。

アンケートは、平成 26 年 10 月 12 日に開催した長野県林業大学校 木望祭で行いました。対象は子ども広場の木育コーナー来場者 90 名です。アンケート項目は、①「森林は好きですか?」②「家の周囲に子供が自然と触れ合える場所がありますか?」③「家に木の製品はありますか?」④「木のおもちゃは好きですか?」⑤「プラスチックのおもちゃと木のおもちゃ、どちらを選びますか?」⑥「木育という言葉を知っていますか?」の 6 項目です。この中で今回は、④～⑥の結果を使い考察します。

2 アンケート結果

実施したアンケートにおいて、「木のおもちゃは好きですか?」という質問に対して、「はい」85.6%、「いいえ」1.1%、「どちらでもない」12.2%でした(図1)。また、「木のおもちゃとプラスチックのおもちゃ、どちらを選びますか?」という質問に対して、「木」65.6%、「プラスチック」

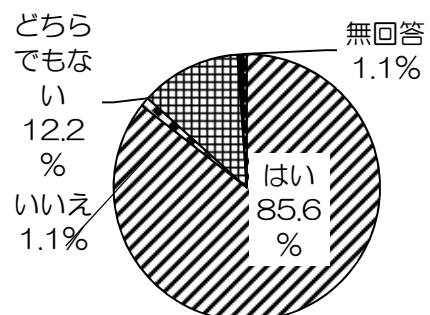


図1 アンケート④

4.4%、「分からない」26.7%でした（図2）。そして、「木育という言葉を知っていますか」という質問に対して、「はい」54.4%、「いいえ」42.2%でした（図3）。

3 アンケート考察と木育カフェ

木のおもちゃに対する自由意見です。「丈夫。危険が無い」、「(日本製は)安心・安全で良い」、「安全そうなイメージ」から、「木は良いものである」という強いイメージを持っている人が多くいて、木の長所と短所を正しく理解していないのではないかと考えられました。このようなイメージを持つ人がいるのは、森林や木と触れ合ってきたのではない世代の増加だと推測されます。そのため、若者を対象とした木育が重要と考え、木育企業を「木について正しく理解してもらう企業」として、「正しい知識を伝える場作り」を企業目標としました。また、顧客を現在の木育の主対象である子供とは違い、アンケートでは全体の32.5%に当たる「10～20代の年齢層」を顧客として設定しました。

これらの企業設定から必要だと感じたのは、正しい知識を与える場を作り、木の長所だけを強調せず、実際に肌で木を感じ、顧客自身に木の良し悪しを判断してもらう場を作ることでした。そのために私が提案するのは「木育カフェ」です。カフェは、「10～20代の年齢層」の利用率が高いと思えますし、それ以外の世代の誰でも気軽に入ることの出来る場所です。このカフェを利用して、付加価値を生み出す木育を提供することを提案します。木材関連企業が木育カフェを運営することによって、「カフェそのものの楽しみ」をサポートするものとして「木育」が加わり、そこに「+α利益」が生まれます。そして、木に対して正しい理解のある良い顧客の創出につながり、本当の意味での木材需要の拡大に繋がります。

おわりに

私は林業大学校に入学してから木育と出会い、それ以来様々な研修やイベント、会議などに参加して勉強してきました。木育は知れば知るほど面白くなるもので、もっと色々な人にその内容を知ってもらい、そして木材需要の拡大につなげていきたいです。そのためにも、将来は木育で起業したいと考えています。今回もまだまだ考察の余地がありますので、それを含めてこれからも木育について真摯に考え、行動していきたいです。

参考文献

- 1) 岩崎夏海著 2009 もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら
- 2) P.F.ドラッカー著 上田敦生訳 2001 マネジメントー基本と原則【エッセンシャル版】

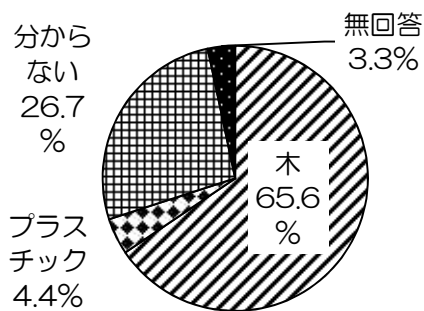


図2 アンケート⑤

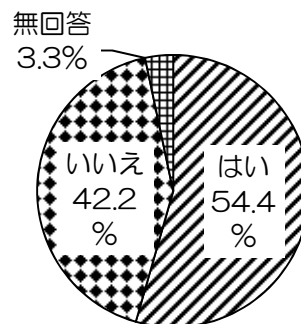


図3 アンケート⑥